

令和7年4月1日
札幌開発建設部

令和7年度北海道開発事業費

(札幌開発建設部実施分)の概要について

令和7年度北海道開発事業費（札幌開発建設部実施分）について、別紙のとおりお知らせします。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部

全体	広報官	廣川 健	(電話番号 011-611-0279)	ダイヤルイン)
河川関係	河川計画課長	渡邊 信明	(電話番号 011-611-0329)	ダイヤルイン)
道路関係	道路計画課長	平 記好	(電話番号 011-611-0239)	ダイヤルイン)
空港関係	空港対策官	福本 貴則	(電話番号 011-611-0273)	ダイヤルイン)
公園関係	道路防災推進官	立崎 哲也	(電話番号 011-611-0246)	ダイヤルイン)
農業関係	農業整備課長	佐藤 禎示	(電話番号 011-611-0247)	ダイヤルイン)

札幌開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/>



令和7年度

北海道開発事業費
(札幌開発建設部実施分)の概要について

令和7年4月

札幌開発建設部

目 次

I	札幌開発建設部事業費総括表	1
II	札幌開発建設部関係事業概要（事業別）		
1	治水関係事業	2
2	道路事業	1 2
3	空港整備事業	2 0
4	国営公園事業	2 1
5	農業農村整備事業	2 2

令和7年度 札幌開発建設部事業費総括表

(事業費)

(単位：百万円)

事 項	予 算 額	備 考
治 水	41,540	
道 路	38,754	
空 港 整 備	2,960	
都 市 水 環 境 整 備	64	
国 営 公 園 等	1,019	
農 業 農 村 整 備	13,016	
合 計	97,353	

- 注) 1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
 2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

令和7年度の主な河川事業（石狩川下流）

近年頻発する水害・土砂災害を踏まえ、第9期北海道総合開発計画に基づき、生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりに資するため、気候変動に伴い激甚化する水災害に対する北海道の地域特性を踏まえた流域治水やグリーンインフラの考えを取り入れたインフラ整備を推進します。

また、四季折々の川の自然環境や景観、水辺活動やサイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携した魅力的な水辺空間の創出等により、地域づくり・観光振興に貢献する「かわたびほっかいどう」プロジェクトを推進します。

川へ行こう！ 川を楽しもう！



- 石狩川下流域の河道掘削、築堤等の河川整備
 - 堤防除草や河川巡視・点検、河川構造物の補修・設備の更新
 - 構造物の安全性を確保する応急的な改善
 - 既設多目的ダムの施設点検・補修、設備更新
- など



凡例	
—	堤防
⊕	防災ステーション
⊙	環境整備事業
■	遊水地(整備中)
■	遊水地(完成)
▲	ダム(完成)
▲	ダム(建設中)
□	直轄管理区間

— 石狩川 北村遊水地整備 —

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国有数の食料供給地です。

昭和56年8月洪水時には、11箇所の堤防が破堤するなど、氾濫面積614km²、被害家屋約22,500戸におよび甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するために北村遊水地等の整備を推進します。

《北村遊水地》

- 事業箇所 : 岩見沢市、月形町、新篠津村
- 事業期間 : 平成24年度～令和12年度
- 遊水地面積 : 950ha（遊水地単独の面積では、全国で3番目の大きさ）
- 洪水調節容量 : 4,200万m³
- 主な整備内容 : 周囲堤、囲ぎよう堤、越流堤、排水門、用地・補償 等
- 令和7年度実施内容 : 周囲堤、囲ぎよう堤、排水門、補償 等

■昭和56年8月上旬洪水 石狩川流域浸水実績図

<S56.8月上旬洪水被害概要>
・氾濫面積約614km²、被害家屋約22,500戸、死者2名

凡例

- 氾濫区域
- ⊗ 破堤箇所



創成川 市街地の浸水状況
(札幌市・昭和56年8月洪水)



石狩川右岸 下新篠津築堤付近の氾濫状況
(江別市・昭和56年8月洪水)

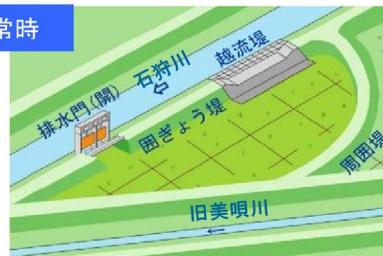
昭和56年洪水からこれまでの対応

- ・石狩川では、昭和56年洪水を対象とした築堤・掘削等の河川改修を推進
- ・千歳川流域においては、支川及び石狩川本川の洪水調節に効果を発揮する千歳川遊水地群等の整備を推進(遊水地群は令和2年度供用開始)

北村遊水地の整備



平常時



平常時は農地として利用

洪水時



洪水時は遊水地として利用

洪水の一部を遊水地に貯留し、洪水時に川の水位を下げる。

■北村遊水地等の整備によって、昭和56年洪水対応が完了し、石狩川下流域の浸水被害を解消。

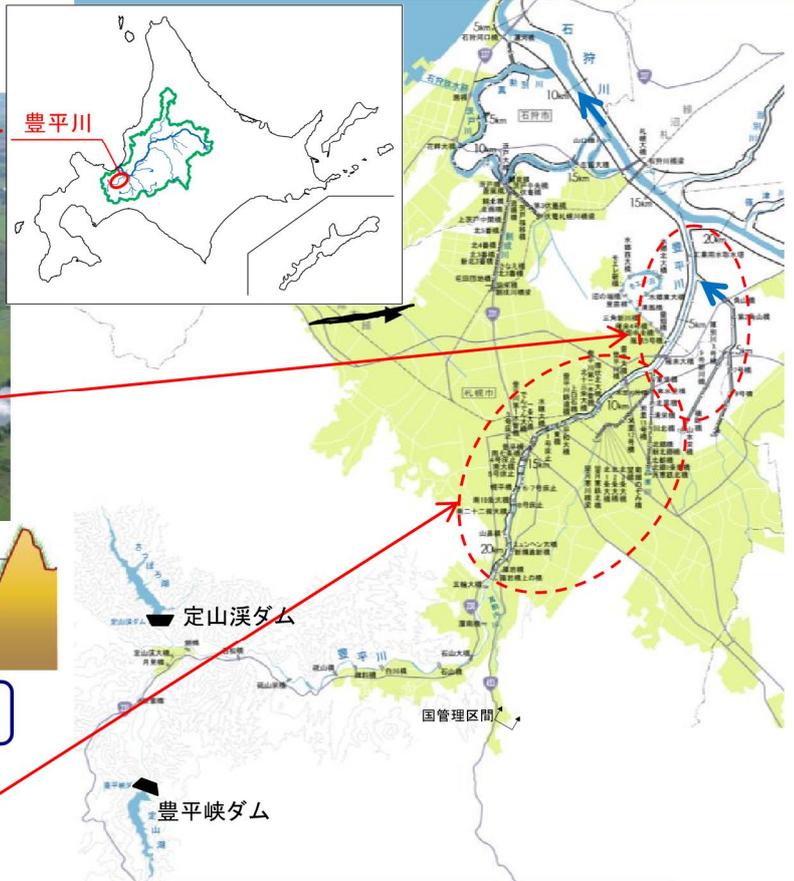
— 札幌市の甚大な被害を防止・軽減するための治水対策(豊平川) —

札幌市は北海道の社会・経済・文化の中心であり、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要な交通網や資産を有しています。

こうした背景のもと、ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。そのため、豊平川本川・支川において流下能力が不足している箇所への河道掘削や河道内樹木の管理などのハード対策を実施するとともに、札幌市等と連携しつつ各種訓練や情報共有化等のソフト対策が一体となった治水対策を推進します。

○令和7年度実施内容 河道掘削、河道内樹木の管理 等

河道掘削による流下能力の確保



河道内樹木の管理(伐採による流下能力の確保)



各種訓練や情報共有化等のソフト対策



石狩川下流域外減災対策協議会 豊平川外地域部会実施状況 (参加機関 札幌市、石狩市、当別町等 8機関)



水防工法訓練状況



ホットライン伝達訓練

平成30年度石狩川水系豊平川総合水防演習実施状況

— 幾寅地区MIZBEステーション —

石狩川の支川である空知川では、平成28年8月の洪水により南富良野町幾寅地区で空知川の堤防が決壊し、農地が冠水するほか、市街地が浸水する被害が発生しました。

この洪水被害を解消するため、堤防の整備や河道掘削を行うとともに、災害時の水防活動や災害復旧の拠点として河川防災ステーションの整備を河川整備計画に位置付け推進しています。近年では平時に施設の上面を市町村等の取組により、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーションをMIZBEステーションとして登録しており、幾寅地区では北海道内では初めて登録された施設となり北海道開発局と南富良野町が連携し施設の整備を推進するとともに、地域の活性化につながる賑わいのある河川空間の創出を目指し「南富良野町かわまちづくり」の取組も推進します。

○令和7年度実施内容 盛土造成、水防センター 等



空知川幾寅地区の堤防決壊氾濫状況

南富良野町市街地の浸水状況

(H28年8月洪水)



整備イメージ



平時利活用のイメージ



デイキャンプ・バーベキュー

パークゴルフ

— 河川堤防・施設の点検・維持 —

石狩川下流域には札幌市を始めとして複数の人口集中地区の他、北海道の産業の基幹となる農地が広がっており、社会の基盤となっています。

洪水によって市街・農地が被害を受けないよう、河川管理施設（堤防・樋門等）について点検を行い、その機能が維持されるように必要な補修を行っています。

■石狩川下流域 管理の概要

施設の点検(状態把握)



堤防除草(左写真)

堤防には堤防保護のための植生が生育しています。

草丈が高い状態だと堤防に異常があっても発見できない恐れがあることから、年に一度、堤防の点検前に除草を行い視認性を確保します。

河川管理施設の点検(右写真)

堤防や河川管理施設(樋門や護岸)に異常がないか、年に一度、全堤防・施設を直接点検し、異常がないかを確認します。

異常を発見した場合は詳細に状況を確認し、施設の安全性にどう影響するかを評価します。



河川巡視(左写真)

前述の詳細な点検とは別に、定期的に河川を巡視し、ごみの不法投棄や、点検後に新たに異常が発生していないか確認しています。

巡視は定期的な実施の他、洪水・地震などがあつた際には緊急的に実施し、堤防や施設に被害がないか確認しています。



効率化・コストダウンの試み

巡視の効率化

現在、人の目で確認を行っている巡視について、既設の状況監視カメラや車載カメラ・ドローンによる撮影画像からAI判定で異常や不法投棄を判別する取組(AI/Eye River)を検証しています。

車載カメラで撮影し、路面のひび割れを判定



AI/Eye Riverイメージ



状況監視カメラを利用し、川への不法投棄を検知



ドローンによる川の状況監視

処分費のコストダウン

堤防除草で発生した刈草や、河川敷地内で生育したため伐採した樹木について、処分場を持ち込むのではなく、利活用(堆肥や燃料)してくれる企業等を公募して配布し、コストを削減しています。



刈草を堆肥用に公募無償配布



伐採した樹木をチップ・燃料などに利活用するための公募樹木伐採(伐採樹木の配布)

施設の維持(管理対策)

点検で確認された破損は補修を行ったり、施設の更新を行ったりしています

施設の機能維持・補修

河川の樹木伐採



樋門水路に溜まった土砂の撤去



河川管理施設の点検で発見された異常は、施設の機能に支障がないよう、補修作業を随時行っています。

(例: 河川の流れを阻害する樹木の伐採、河川へ水を排出する樋門水路の流れを妨げる恐れのある土砂の撤去など)

施設の更新

無動力化・自動開閉化した樋門



完成から年月が経過し古くなった施設について、改正された基準に従って更新したり、新たな機能をもった施設への改良など進めています。

(例: 洪水時に無動力で自動開閉する樋門ゲートなど)

日々の施設管理によって、大雨による洪水時に大きな被害がないよう、施設の維持管理を実施

一 幾春別川総合開発事業一

幾春別川下流部は豊かな農地として利用され、上流部には深い山々に囲まれた桂沢湖があり、川が刻んだ周囲の渓谷からは、貴重な化石が出土しています。また、流域内には道央圏と上川地域を結ぶ基幹交通施設が位置するなど交通の要衝となっており、洪水災害から地域社会を守るため、幾春別川総合開発事業を推進します。

新桂沢ダムは、昭和32年に完成した北海道の直轄多目的ダムである桂沢ダムを約1.2m嵩上げする再開発ダムであり、令和5年度に完成しました。

三笠ぽんべつダムは、幾春別川の支流である奔別川において新たに建設される治水専用ダムであり、令和4年度より本体工事を実施しています。

○目的

- ・洪水調節（幾春別川、石狩川の洪水防御）
- ・流水の正常な機能の維持
- ・水道用水の供給（桂沢水道企業団（岩見沢市、三笠市、美唄市）0.1m³/s）
- ・工業用水の供給（北海道企業局 0.149m³/s）
- ・発電（電源開発（株）最大17,290KW）

○令和7年度実施内容： 本体工事（三笠ぽんべつダム）、地すべり対策工事 等



— 石狩川水系豊平川直轄砂防事業 —

札幌市は北海道の社会・経済・文化の中心であり、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要な交通網や資産を有しています。こうした背景のもと、ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。

また、札幌市街地は豊平川の扇状地上に形成されており、昭和56年洪水では、豊平川本川河道に流出した堆積土砂による河床上昇のため、堤防付近を高速流が流れる大変危険な状態になりました。幸い、豊平川本川では堤防決壊には至りませんでした。上流域の河岸段丘や支川沿いの市街地では、土石流や渓岸侵食により死者1名を含む甚大な土砂災害が発生しました。これらを契機に、翌昭和57年より直轄砂防事業による砂防設備の整備を進めています。

○事業効果

砂防堰堤や床固め工等の砂防設備の整備により、下流への土砂流出や堆積土砂の再移動を抑制し、豊平川本川の土砂・洪水氾濫被害を軽減するとともに、市街地や重要交通網、要配慮者利用施設などの資産を土石流等の土砂災害から守ります。

○令和7年度実施内容 砂防堰堤工 等



砂防基準点下流の扇状地に広がる札幌中心部

札幌中心街

豊平川

砂防基準点



昭和56年 豊平川堆砂状況(南19条大橋付近)



札幌中心街

砂防基準点

南の沢川

豊平川

オカバルシ川

簾舞川

事業実施箇所



昭和56年災害 オカバルシ川被災状況



砂防堰堤工完成状況(既設堰堤改良)
【南の沢川2号堰堤 令和5年3月完成】

総合水系環境整備事業【石狩川下流地区】(かわまちづくり)

河川空間を活用した地域活性化のため、砂川遊水地、漁川（道と川の駅 花ロードえにわ隣接地）、江別市（江別河川防災ステーション隣接地）及び南富良野町（MIZBEステーション・道の駅南ふらのの近傍）において、地元自治体と連携して「かわまちづくり」を推進します。

砂川地区：砂川オアシスパーク（砂川遊水地）を活用し、アウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行います。また、民間事業者等による営業活動を可能とし、砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として整備します。

恵庭地区：管理用通路の整備等を通じて公園や市街地との連続性を向上させるとともに、親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造し、観光地の魅力や居住環境の向上を図ります。

江別地区：千歳川の石狩川合流点付近で水辺整備を行い、水辺・周辺の歴史的建造物・まちをつなぐことで、まちなかの回遊性・親水性を高め、賑わいの創出による地域の活性化を図ります。

南富良野地区：MIZBEステーションや近傍に位置する道の駅「南ふらの」と空知川が一体となった水辺整備を行い、広域観光・まちづくりによる賑わいの創出と幾寅地区を含む南富良野町の地域活性化に寄与することを目指します。

○令和7年度実施内容【砂川地区かわまちづくり】 モニタリング 【南富良野町かわまちづくり】 高水敷調整等
【恵庭かわまちづくり】 モニタリング
【江別市かわまちづくり】 階段工、取付道路、詳細設計等

砂川地区かわまちづくり

親水護岸や管理用通路等の整備と、都市・地域再生等利用区域指定による水辺の賑わいづくり

砂川スイーツが結ぶ まち・人・水辺



恵庭かわまちづくり

恵庭市による花の拠点整備と連携し、良好な水辺空間を創造

花のまち恵庭で広がる、水辺の観光拠点と次世代住環境



江別市かわまちづくり

水辺・周辺の歴史的建造物・まちをつなぐことで、まちなかの回遊性・親水性を高め、賑わいを創出

イベント・キャンプ・歴史文化も楽しめる駅チカ水辺広場



南富良野町かわまちづくり

MIZBEステーションや道の駅「南ふらの」と空知川が一体となった水辺整備による広域観光・まちづくりによる賑わいの創出

森と湖のポテンシャルを活かしてアウトドア観光の拠点に



令和7年度 道路事業

1. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

(1) 広域分散型社会を支える交通ネットワークの形成

広域分散型社会を形成している北海道において、食・観光等の基幹産業を支えるとともに、国土の強靱化を確保し、地域間の連携強化を図るため、道央圏連絡道路における「国道337号 長沼南幌道路」、「国道12号 峰延道路」、「国道452号 盤の沢道路」等の早期開通を目指し、事業を推進します。



道央圏連絡道路 中樹林道路
【令和7年3月15日開通】



道央圏連絡道路 長沼南幌道路（長沼町）

(2) 札幌における交通結節機能と都市機能の強化

北海道新幹線札幌延伸を見据え、道内各地を結ぶ高規格道路と札幌都心とのアクセス機能を強化する「国道5号 創成川通」、札幌駅周辺における交通結節機能を強化する「国道5号 札幌駅交通ターミナル整備」の事業を推進します。

<道内各地を結ぶ高規格道路と札幌都心とのアクセス強化>

○札幌都市圏は、北海道全体に及ぶ中枢管理機能や他の基礎圏域では提供できない高次都市機能を担っています。

○一方、同規模の政令市に比べ、都心と高規格道路のICとの距離が遠く、空港や道内各地域とのアクセスに課題があります。

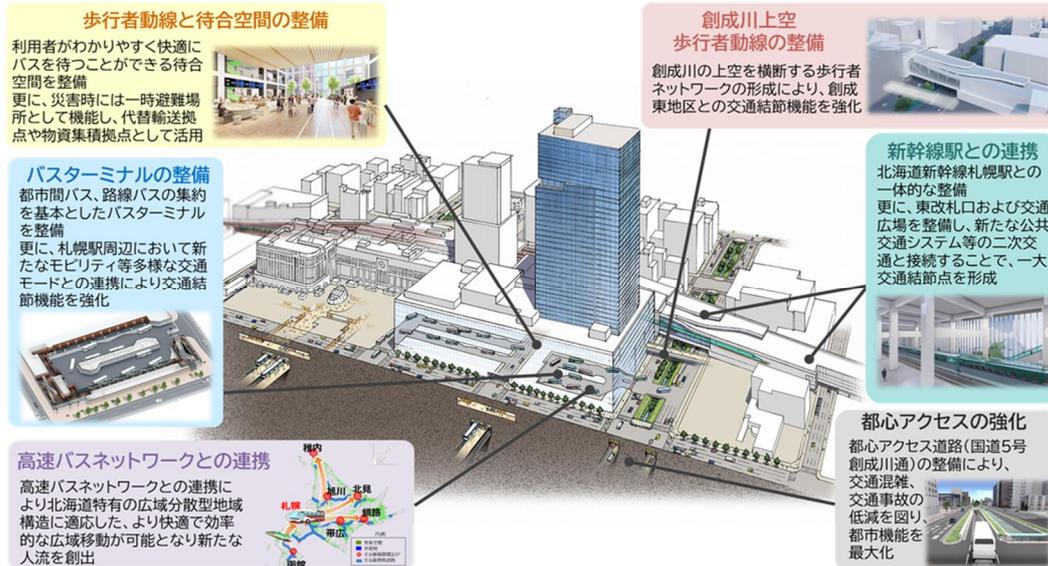
○北海道全域との広域的な交流・連携機能の確保を目指し、高規格道路へのアクセス道路（国道5号 創成川通）の整備を推進します。



国道5号 創成川通（札幌市）
整備イメージ

＜札幌駅周辺における交流拠点整備＞

- 札幌の玄関口にふさわしい空間の形成と高次都市機能・交通結節機能の強化を目指し、新しいバスターミナルの整備を推進します。
- 平常時は快適で利便性の高い待合空間、災害時は避難者の受入空間の確保等により防災拠点として機能します。



札幌駅交通ターミナル整備（イメージ）



待合空間のイメージ（平常時）



バス乗降空間のイメージ（平常時）



札幌駅周辺の帰宅困難者の様子
（平成30年9月6日
北海道胆振東部地震時）

2. 多様で豊かな地域社会の形成

＜「生産空間」の維持・発展に資する「道の駅」の機能強化＞

地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常的な生活サービス機能を「道の駅」に集約するなど、地域の拠点づくりを支援していきます。

- 「道の駅」の交通結節点化など、地域の拠点化に向けた多様な取組を推進していきます。
- 親子で滞在しやすい子育て環境創出のため、子育て応援施設の整備を推進します。
- 日本政府観光局（JNT0）外国人案内所の認定取得や、多言語による観光地案内・道路情報提供の充実等の取組を推進します。



子育て応援施設整備
自販機・授乳室・おむつ交換台
（道の駅「275つきがた」）



道の駅整備 観光案内所設置
（道の駅石狩「あいろーど厚田」）

3. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

<「シーニックバイウェイ北海道」の推進>

シーニックバイウェイ北海道は、地域と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを行う取組です。平成17年度より開始し、札幌開発建設部管内では「支笏洞爺ニセコルート」「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」「空知シーニックバイウェイ体感未来道」が活動しています。

また、道内各地の活動団体がお薦めする特に魅力ある景観等を有する道路を15区間認定し、景観の維持・形成や誘客に向けた情報発信等を重点的に実施します。また、令和5年から「秀逸な道」看板を順次設置しており、北海道のドライブ観光をより一層促進します。



空知シーニックバイウェイ体感未来道ー
日本一の直線道路（国道12号）



札幌シーニックバイウェイ
藻岩山麓・定山溪ルート（国道230号）

<サイクルツーリズムの推進>

世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、石狩・空知・上川地域の全長約333kmに及ぶ「石狩川流域圏ルート」、石狩・留萌地域の全長約290kmに及ぶ「石狩北部・増毛サイクルルート」において、安全で快適な自転車走行環境の改善やサイクリストの受入環境の充実、情報発信の取組を推進します。



案内看板の設置
自転車走行環境の整備



サイクリスト・応援カー



サイクルラック設置
（道の駅「しんしのつ」）

4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

(1) 災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの耐災害性強化

地震・津波による被害や社会的影響を最小限に抑えるため、代替性確保のための高規格道路の整備や緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強、道路斜面や盛土等の防災対策を推進します。

また、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」（令和2年12月閣議決定）を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム（北海道ブロック版）」を令和3年4月に策定し、耐災害性の強化や災害時におけるネットワーク確保のため防災震災対策や高規格道路のミッシングリンク解消を推進します。

橋梁や道路の流失、土砂災害、電柱倒壊等による道路の通行止めのリスク解消や津波や洪水からの避難場所確保のため、河川に隣接する道路構造物等の流失防止対策や法面・盛土対策、無電柱化、盛土等を活用した避難施設の整備を実施します。



道路施設の老朽化対策（国道233号 舗装修繕）

(2) 防災、通行の安全、景観の向上に資する無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から実施している電柱の新設抑制及び無電柱化について、低コスト技術等を積極的に導入しつつ、事業のスピードアップを図ります。



無電柱化の整備（国道12号江別市野幌）

(3) 社会経済活動を支える道路施設の老朽化対策

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。



道路施設の老朽化対策（橋梁点検）

(4) 冬期交通の確保

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格道路の整備、国道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。また、大雪・暴風雪時の取組として、道路管理者間で連携した高速道路通行止め時の並行路線対策やラジオ放送・SNS を活用した情報発信、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊：リエゾン^注）を含む）の派遣による自治体支援などを、円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。

（注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）



除雪作業の状況



石狩・空知地方道路防災連絡協議会
（WEB併用開催）

(5) 交通安全対策の推進

事故多発区間での事故データを用いた分析や、ビッグデータを活用した潜在的な危険区間の分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する事故ゼロプラン※を推進するとともに、通学路や未就学児の移動経路において、子供の安全な通行を確保するための対策を関係機関と連携して推進します。

※事故ゼロプラン：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組



左折車線と直進車線を分離

交差点における交通安全対策
(国道5号 札幌市)



可搬型ハンプの貸し出し

生活道路における交通安全対策
(札幌市)

(6) 除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組 (i-Snow)

人口減少や高齢化が進む中、除雪機械の熟練オペレータの高齢化や担い手不足など、除雪を取り巻く課題の解決のため、準天頂衛星「みちびき」と「高精度3D マップデータ」を活用した運転支援ガイダンスや、投雪作業自動化の実証実験・実働配備を行っています。

機械操作の自動化により、2名体制で行う除雪機械の運転操作が1名体制でも可能となり、人口減少下でも必要な除雪サービスを維持します。

■機械操作の自動化

- ・投雪作業の自動化について、令和4年度から実働配備を開始、令和5年度より実働配備拡大。
- ・準天頂衛星「みちびき」通信電波の不感地帯対策について検討を継続。
- ・自動操作対象機械拡大の検討。



除雪現場の省力化イメージ



『除雪装置自動制御付』ロータリ除雪車

■吹雪時の映像鮮明化技術

- ・吹雪等の視界不良時でも約100m先まで視認が可能となり、安全に除雪作業の継続が可能。
- ・令和3年度から全道へ実働配備を開始。今後も配備を拡大。



元映像



鮮明化処理



映像鮮明化+AIを活用した物体検知・警告



(7) 「道の駅」の防災拠点化

近年、激甚化・頻発化する自然災害に備え、各地で広域的な復旧・復興活動の拠点整備が進められており、地域防災計画に位置付けられた「道の駅」において、地域の防災力向上に資する防災拠点の整備や機能向上を図っています。

広域災害応急対策の拠点となる防災機能を有する「道の駅」の駐車場を「防災拠点自動車駐車場」として指定しており、令和7年3月末時点で管内においては、9駅を指定しています。

地域防災計画に位置付けられた「道の駅」においては、更なる防災機能強化に向けて、BCPに基づく防災訓練等について重点的に支援していきます。



防災機能強化の例：防災訓練
(道の駅「三笠」)

5. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

再生可能エネルギーの導入拡大、脱炭素化等の取組

地球温暖化防止が重要な政策課題となっている中で、北海道の豊かな自然や地域資源を活かしてグリーン社会の実現を主導していくことが求められています。ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組を推進し、持続可能な脱炭素社会の形成を図ります。

○令和4年4月に北海道開発局・北海道経済産業局・北海道地方環境事務所・北海道によるワーキングチームを設置し、道の駅設置者である市町村や道の駅管理者と連携し、「道の駅」に急速EV充電施設の設置を目指します。

○CO2削減に大きく寄与する道路ネットワークの整備、渋滞対策等を推進します。

令和3年度から令和7年度までの直轄国道の開通により、CO2排出量が約6万t/年^{*}削減します。^{*}北海道開発局調べ



道の駅への急速EV充電施設設置
(道の駅「北欧の風 道の駅 とうべつ」)



国道230号 定山溪拡幅(札幌市)
【令和5年3月24日開通】

●令和7年度 主な道路事業の概要

◎は令和7年度新規事業化

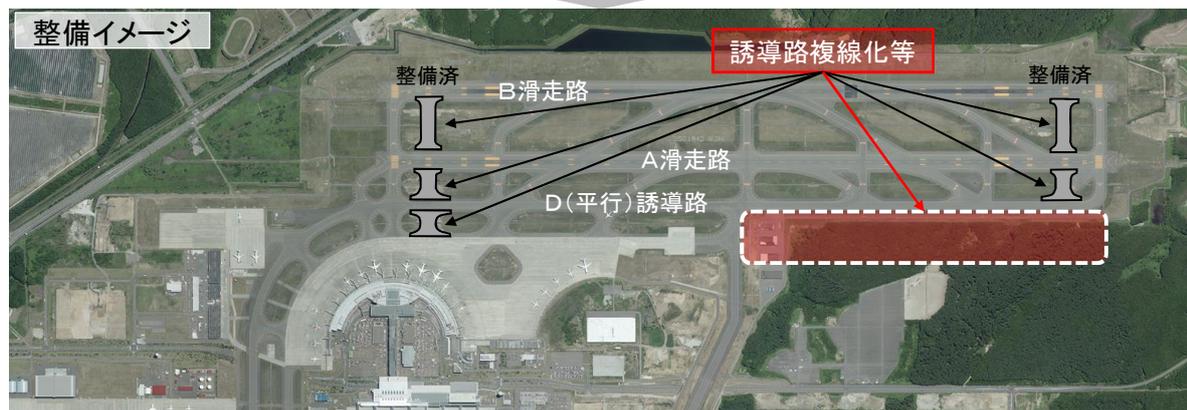
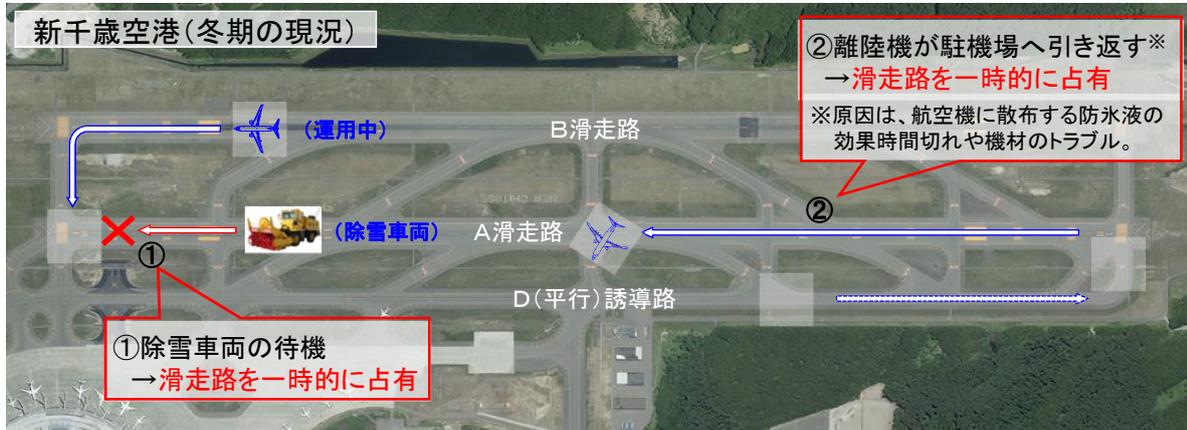
国道名	事務所	主要事業
5号	札幌道路事務所	創成川通、札幌駅交通ターミナル整備、新川交差点改良
12号	札幌道路事務所	野幌末広町交差点改良、◎幸町交差点改良 菊水電線共同溝、白石中央電線共同溝 白石本通第二電線共同溝、厚別中央電線共同溝 江別野幌町第二電線共同溝
	岩見沢道路事務所	峰延道路
	滝川道路事務所	江部乙付加車線整備、空知太西1条4丁目交差点改良、◎北滝の川付加車線整備
	深川道路事務所	稲田付加車線整備
36号	札幌道路事務所	◎美園交差点改良
	千歳道路事務所	北栄路肩改良、輪厚中央通交差点改良
230号	札幌道路事務所	南16条西交差点改良、◎山鼻路肩改良
233号	深川道路事務所	道道沼田妹背牛線交差点改良
234号	岩見沢道路事務所	◎朝日湯地交差点改良、◎道道夕張長沼線交差点改良
337号	札幌道路事務所	道央圏連絡道路「長沼南幌道路」 新港南2丁目交差点改良
	千歳道路事務所	南幌路肩改良
452号	岩見沢道路事務所	盤の沢道路
453号	札幌道路事務所	石山東2交差点改良、◎平岸交差点改良

空 港 整 備 事 業

1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障、観光立国の一層の強化

○国内外の旅行者の受入環境整備（誘導路複線化等）

新千歳空港では、除雪作業や航空機のトラブル等による滑走路の一時的な占有に起因する遅延や欠航が課題となっていることから、誘導路の複線化事業等を推進し、航空機の安定運航を図り、国内外旅行者の受入環境の整備に取り組みます。



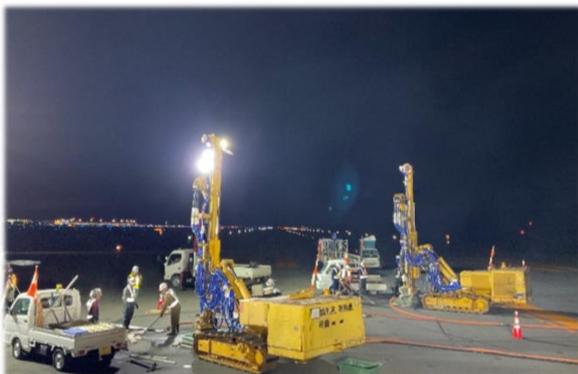
2. 安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

○空港の防災・減災対策（滑走路等の液状化対策）

新千歳空港では、大規模地震災害時における緊急物資等の輸送拠点としての機能確保、航空ネットワーク及び背後圏の経済活動を維持するため、空港の防災・減災対策を推進します。

○滑走路端安全区域（RESA）の整備

新千歳空港では、航空機がオーバーランまたはアンダーシュートを起こした場合の乗客の被害軽減と航空機の損傷軽減対策として、着陸帯両端に安全確保のための滑走路端安全区域（RESA）の整備を着実に実施します。



令和7年度 国営公園事業（滝野すずらん丘陵公園）

◇広域レクリエーションの拠点となる大規模公園の運営維持管理

滝野すずらん丘陵公園は、四季折々、北海道ならではの豊かな自然を満喫できるよう、自然体験型観光や冬期も利用可能な広域レクリエーションなどのニーズに対応した公園を目指しています。

当公園は、平成22年度に約400ha全面を開園しており、「自然と人・人と人のふれあい」を基本テーマとして、多様なニーズに対応する四季を通じた利用促進を図るため、花フェスタ（チューリップ・すずらん等）、滝野スノーワールド、森の中で音楽やソリ遊びを楽しむ森フェス等の様々な野外レクリエーション活動を展開しながら、公園施設の修繕・更新、ヒグマの侵入防止対策、再生可能エネルギー施設整備等、適切な運営維持管理を行います。

また、様々なニーズに対応したイベントの開催、SNSを活用した動画による情報発信の充実、Wi-Fiスポットの提供、HP（4カ国語対応）による公園情報の提供、翻訳機等による公園案内を行い、外国人観光客にも快適・円滑に公園を楽しんでいただけるよう、受入環境の整備を推進します。

滝野すずらん丘陵公園



チューリップ・すずらんフェスタ



滝野スノーワールド(ファミリーゲレンデ)



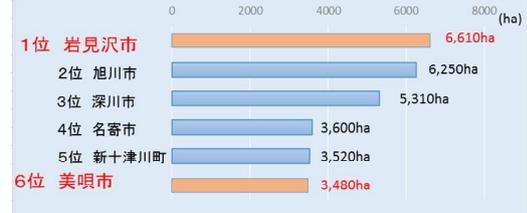
野外レクリエーションイベント
(森フェス:ウィンター)



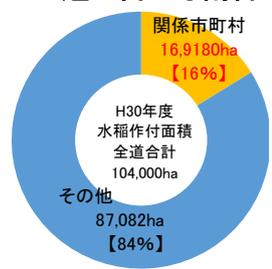
1 地域の概要

- ▶ 石狩川中流域に拓けた稲作を中心とした農業地帯
- ▶ 水稲作付面積が全道1位と6位を受益とする「米どころ」(岩見沢市で「米 1グランプリ」を受賞)
- ▶ 北海地区の関係市町村で、約2万haの水稲を生産 → 全道の約2割を占める
- ▶ たまねぎ、はくさいなどは、野菜指定産地の指定を受け、道内有数の産地

■水耕作付面積の全道ベスト5 (H30年度)



■全道に占める割合



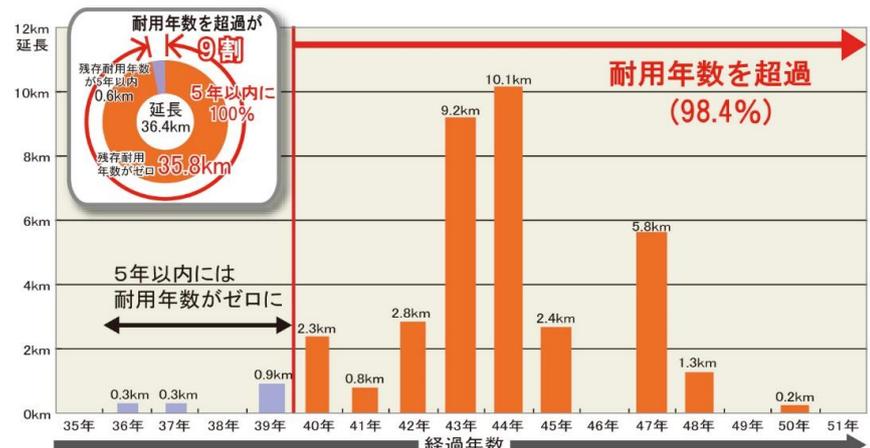
「米1グランプリ」でコメ日本一

2 地域の現状と課題

- ▶ 国内最大規模の「北海頭首工」・「北海幹線用水路」が、地区内の水稲生産を支えている
- ▶ これらの既存施設は、築造後40年以上を経過する施設が約9割
- ▶ 5年以内に、ほぼ全ての施設の残存耐用年数がゼロ
- ▶ 積雪寒冷地に対応した構造となっておらず「水路倒壊」等のおそれ



■北海幹線用水路及び岩見沢幹線用水路 既設使用区間の造成後経過年数 (H25時点)



3 事業目的

北海地区の農業用水施設は、老朽化・凍上等によるコンクリートの劣化が進行している。

また、北海幹線用水路は、長大な水路であるため、効率的な用水管理や施設管理に苦慮している。

このため、本事業では頭首工及び幹線用水路を整備し、農業用水の安定供給、維持管理の軽減、用水管理の効率化を図り、農業経営の安定と地域農業の振興に資するものである。

4 事業計画概要

受益面積：27,002ha (田26,269ha、畑733ha)

関係市町村：岩見沢市、美唄市、赤平市、三笠市、砂川市、南幌町、奈井江町、新篠津村

受益戸数：2,329戸

主要工事：頭首工1カ所(部分改修)、用水路2条(L=36.4km)

主要作物：水稲、小麦、大豆、たまねぎ、小豆、キャベツ、はくさい、花き

事業工期：平成22年度～

5 老朽化状況と改修適期

▶ 施設機能診断調査の結果から、「北海頭首工」、「北海幹線用水路」の健全度評価(老朽度)として、IV～Iランクに区分

■施設機能診断調査結果

▼北海頭首工

工種	部位	グレード
土砂吐	堰柱	Ⅱ：要観察
	管理橋	Ⅱ：要観察
洪水吐	堰柱	Ⅱ：要観察
護床	エプロン	Ⅱ：要観察
取水口	—	Ⅲ-2：補強
護岸	擁壁	Ⅱ：要観測

▼用水路

グレード	北海幹線用水路(km)	岩見沢幹線用水路(km)
Ⅳ：改築	22.2	1.0
Ⅲ-2：補強	10.0	1.2
Ⅲ-1：補修	0.8	1.2
Ⅱ：要観察	—	—
Ⅰ：対策不要	—	—

※Ⅲ-2、Ⅲ-1は、経済比較の結果、最も有利となったⅣと同様の改築を行う。



▶ 緊急度の高いIVランクから、随時、改修する工事工程計画を策定

■緊急性・優先度・早期効果発現を踏まえて改修時期を設定



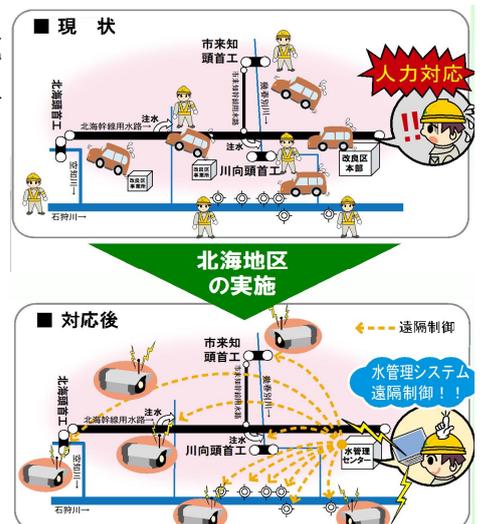
※施設毎の優先度：「北海頭首工」→「北海幹線用水路」→「岩見沢幹線用水路」
 ※施設内の優先度：「上流部→下流部」、「劣化グレード上位→下位」、「市街地→農地」を評価して順位付け

6 用水管理の向上

▶ 長大な用水路で広域につながっているため、水管理や土砂流入対策が必要 ⇒ 降雨時等の水利制御施設や土砂排出のための進入路の整備

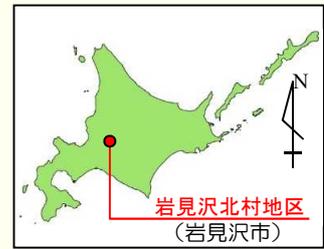


▲土砂排出スロープの設置例



担当：北海道開発局 札幌開発建設部 岩見沢農業事務所 (TEL 0126-22-1760)

いわみざわきたむら地区



～ ICT を活用した低コスト・高品質生産を実現する
未来につなぐ“強い いわみざわ農業”の展開～

地区の概要

北海道第1位の水稲作付面積を誇る道内有数の穀倉地帯であり、食味が特に良好な「特A」米の産地となっている。さらに、水田の転作作物として、小麦、大豆のほかはくさい等の野菜生産にも力を入れており、水稲を基幹とした複合経営が展開されている。

位置：北海道石狩平野のほぼ中央、石狩川左岸に広がる水田地帯

関係市町村：岩見沢市

受益面積：1,393ha(田：1,360ha、畑：33ha)

主要作物：水稲、小麦、大豆、はくさい、にんじん、かぼちゃ、キャベツ、スイートコーン

<地区全景>



はくさい「地域ブランドである
「厳選された高品質米 “まるいわブランド”」
”大地のこだわり情熱米”」【全道一の作付面積】

□水稲作付面積(H30)の全道上位5市町村



地区農業の現状と課題

本地区は、農家数の減少により経営規模の拡大が進み、離農跡地の継承による経営耕地の分散化が進んでいる。また、農地は、平均区画が0.4haと小区画であり、泥炭土に起因した排水不良を呈していることから、農作業効率が悪く、農業生産性の向上を図るうえで支障を来している。

また、岩見沢市で普及推進を図っている農作業機械の自動走行等のスマート農業の導入による省力化・低コスト化が進められない状況にある。

加えて、排水不良と労働力不足から野菜の増産が進まない状態となっている。

このため、現状の基盤のままでは今後、耕作放棄地が広域的に発生するおそれがあり、大区画化等の基盤整備が急務な状況となっている。

岩見沢北村地区の事業構想

■地区の生産基盤状況

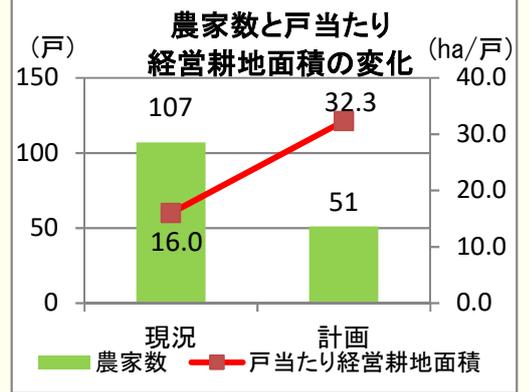
「0.5ha未満の小区画ほ場が9割を占める」



- 小区画なほ場 「泥炭土壌に起因した排水不良が生じている」
- 排水不良
- 経営耕地が分散化(最大12団地に分散)

耕作放棄地増加の懸念

■地区の営農状況



「将来(約15年後)には、平均で30ha/戸規模に」

国営緊急農地再編整備事業の実施

ほ場の大区画化や排水改良による基盤整備と換地処分による担い手への農地集積を進め、耕作放棄地の発生を未然に防ぎ、農地の引き受け手である担い手が大規模な経営や高収益作物の生産を拡大できる土台を形成

＜現況のほ場＞



＜整備後のほ場＞



- ・ほ場の大区画化(0.4ha区画→2.4ha区画)
- ・排水不良の解消
- ・水管理の合理化
- ・担い手農家への農地集積

生産現場:ICT活用によるスマート農業の取組

- 岩見沢市により高精度測位情報の配信が可能なRTK-GPS基地局を設置
- 自動操舵システム等の導入によるスマート農業の推進



【GPSレバラー】【GPSガイダンス及び自動操舵システム】 【GPS位置データを活用】

担い手:農作業請負体制の構築

- 既存の機械共同利用組合の取組拡大による農作業請負体制の育成
- 共同作業体により集落単位での農作業の受託を行う生産システム化を進める



【小麦収穫における共同作業】

生産・加工・流通:野菜類を組み入れた複合経営の確立

- まるいわブランド(野菜類)を全国各地の市場・量販店へ出荷
- 生産履歴やGAPの取組みによる肥料・農薬の適正使用のチェック



【全道一の作付面積】

【はくさいの収穫状況(まるいわブランド)】

経営規模及び高収益作物の拡大によって 農業所得の増加・産地形成の強化

- 共同作業体による農作業受託体制を構築し、労働力の軽減を図ることで「まるいわブランド」(野菜類)の生産拡大を図り、農業所得を向上



- ほ場の大区画化とともにスマート農業に取り組むことで農作業を最大限に省力化し、農作業時間縮減及び労働負荷軽減【米生産コストの低減】

- 農家グループによる加工品開発などの付加価値向上に向けた取組を推進



【北の大地マルシェ】(直売施設)

(国営総合農地防災事業)

雨竜川下流地区



～農作物の安定した生産のために～

【地域の概要】

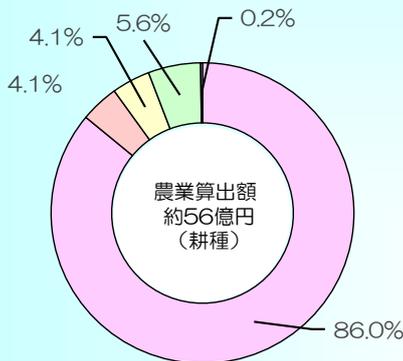
本地区は、北海道雨竜郡妹背牛町及び秩父別町に位置する農業地帯であり、水稻を主体に水田の畑利用による畑作物、野菜類及び花きを組み合わせた営農が展開されている。

地域農業は、水稻の算出額割合が86%と高く、北海道で生産される米の約4%を占めている。生産された米は各町が所有する低温貯留乾燥調整施設で保管され、地域ブランド米（妹背牛町「北彩香」、秩父別町「いなほの鐘」）として、道内外に販売されている。

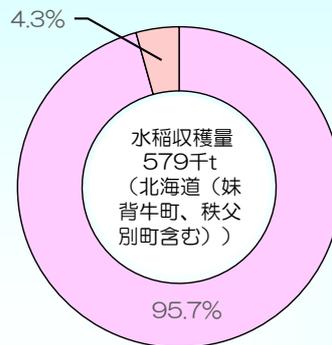
また、農商工連携により「ちっぷべつ緑のナポリタン」を販売し、地域の発展に寄与している。

《地域の農業の状況》

《2町の農業産出額割合》



《北海道における2町の水稲収穫量割合》



「特Aランク」のブランド米



《地域ブランド米 (北彩香、いなほの鐘)》

□米 □麦類・雑穀・豆類 □野菜 □花き □その他

□北海道 (妹背牛町・秩父別町除く)
□妹背牛町+秩父別町

出典：平成27年市町村別農業算出額（推計）

出典：平成28年作況調査

《農商工連携による地域の発展》



《ちっぷべつ緑のナポリタン》

特産品であるブロッコリー等を活かした「ご当地グルメ」や「加工食品」を開発。農商工連携により、原材料の生産、加工、飲食店での提供までを地域で完結させることにより、地域農業の収益力の向上を図っている。

【地区の課題】

本地区の基幹的農業水利施設である八丁目頭首工は、洪水等の自然的状況の変化に起因する河床洗掘の進行により、浸透路長が不足し、施設の機能が低下していることから、頭首工の転倒によって農作物、農地等への災害のおそれが広域的に生じている。

■河床洗掘による頭首工の安全性低下

年度	八丁目頭首工 計画高水流量	
昭和40年	2,200m ³ /s	八丁目頭首工造成時
↓		
平成19年	2,500m ³ /s	計画高水流量の変更
頭首工の安全性が不足		

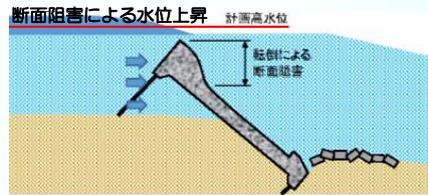
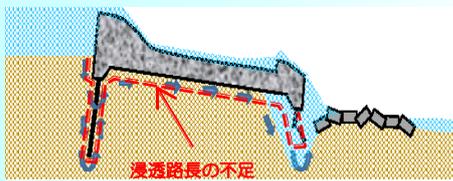
平成14年撮影



令和3年撮影



■八丁目頭首工の用水供給の停止、広域的な災害のおそれ



- 河床洗掘により、下流側護床工が低下し、浸透路長が不足
- 浸透路長の不足に伴うパイピングによる固定堰転倒の懸念

- 固定堰の転倒にともない、用水供給の停止に加え、河川堤防が破堤した場合、広域的な災害が発生するおそれ

【事業の効果】

八丁目頭首工等の改修を行い、頭首工の施設機能を回復することにより、農作物、農地等の広域的な災害を未然に防止し、農業生産の維持及び農業経営の安定を図る。

【現況】



頭首工等の改修



【改修後イメージ】



農業生産の維持



【米の収穫状況】



【地区の概要】

- ◎関係市町村 : 雨竜郡妹背牛町、同郡秩父別町
- ◎受益面積 : 829ha
- ◎受益戸数 : 58戸
- ◎主要工事計画 : 頭首工（改修）1カ所、揚水機（改修）1カ所、導水路（改修）1条 L=2.5km
- ◎工期 : H29～
- ◎主要作物 : 水稲、小麦、大豆、ブロッコリー、花き(スターチス)